

	育成を目指す資質・能力	全国学力・学習状況調査、 学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・ 指導体制の工夫
国語	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字や言語の基礎の定着に課題がある。</li> <li>・「話すこと・聞くこと」について、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることに課題がある。</li> <li>・「読むこと」について、叙述を基に、文章の構成や展開を捉えたり内容を理解したりすること、目的に応じて必要な情報を見付けることや書かれていることなどについて具体的に想像することに課題がある。</li> <li>・「書くこと」について、伝えたいことを整理し明確にして表現することに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝学習の時間等を活用し、文章中での使い方・意味にも注目させながら、習得した漢字を繰り返し練習できるようにする。</li> <li>・学級文庫や学校図書館を活用し、読書をする時間を設け、語彙を増やすようにする。</li> <li>・話す目的や自分が聞こうとする意図を明確にする。</li> <li>・話し合う際には、相手と自分の共通点や違いに着目させ、比較的に思考し自分の考えをまとめられるようにする。</li> <li>・文構成を図式化し文章の構造を可視化し捉えやすくする。</li> <li>・日常的に自分の思いや考えを書く活動を取り入れ、書くことに対する抵抗感をなくし、表現する機会を増やすようにする。</li> </ul>

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・ 指導体制の工夫
社会	経験・知識・資料を基に、「社会的な見方・考え方」を働かせ、課題を追究したり、解決したりする資質・能力を育成するとともに表現力を高める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知識を問われる問題には答えられるが、知識をもとに歴史的背景を想像したり、政治的思考を働かせ、自分の考えを表現したりすることは難しい児童が多い。</li> <li>・資料を多角的に読み取る知的で楽しい授業を展開し、思考力と表現力を高める必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学年では、体験や資料から分かったことと考えたことをノートやタブレット端末にまとめる活動を行う。インターネットからの情報を集める際に、資料を児童が選ぶ必要があるため、担任が事前に必要なサイトを厳選しておく。</li> <li>・高学年では、様々な資料に触れる時間を設け、多角的に考えさせ根拠をもとに記述・交流させることで表現力を高める。</li> </ul>

	育成を目指す資質・能力	全国学力・学習状況調査、 学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・ 指導体制の工夫
算数	日常の事象を数理的に捉え、見通しをもち筋道を立てて考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表したり目的に応じて柔軟に表したりする力を養う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な四則計算はできるが、筋道を立てて考える問題について、自分の解法を説明することに課題がある。</li> <li>・図形領域において、作図などの操作を伴う問いへの課題が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図や数直線などの数学的な表現方法を用いて自分の考えを説明する場面を多く取り入れ、立式や解法について相手に分かりやすく表現する力を養う。</li> <li>・ものさし、三角定規、コンパス、分度器などの道具を正しく使えるよう、既習の道具についても繰り返し使う時間を設ける。また、三年生以上は習熟度別の学習を行うことで、既習内容の定着を図る。</li> </ul>

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然に親しみ、理科の見方や考え方を働かせながら活動することを通して、理科の基本的な知識や技能を身に付けさせる。</li> <li>・体験的な活動を多く取り入れることにより、楽しみながら観察や実験を行うことを通して、問題解決の力を身に付けることができるようにする。</li> <li>・自然を愛する心情や主体的に問題解決しようとする態度を養う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知識の定着や文章表現能力に課題があるため、結果や考察等の記入の際に、自分の言葉で事象を正確に記述したり、理科の用語を正確に理解した上で、表現したりすることに課題がある。</li> <li>・知識のみが先行し、既習事項や生活経験を基に予想を立てたり、授業内における実験の結果を踏まえて考察をしたり等することに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然科学の様々な事象を正確に言語化し伝えることに課題が見られるため、特に国語科との教科横断的な学習を取り入れ、理科的な事象を正しく捉え、自分の言葉で表現できるようにする。</li> <li>・教科書で扱う内容を既に「知っている」児童も多数いるが、知識先行ではなく、3～6年生どの学年であっても問題解決の流れを丁寧に扱いながら、身の回りの自然と児童が触れ合う計画を立て、指導・支援を行う。</li> <li>・与えられた活動だけではなく、「もっとこうしたい。」との思いや願いの基、自ら調べたり工夫して活動したりすることができる学習を随時取り入れていく。</li> </ul>

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしたりしようとする態度を養う。</li> <li>・身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考え、表現することができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・与えられた活動には楽しんで取り組むが、「もっとこうしたい。」との思いや願いの基、自ら調べたり工夫して活動したりすることについては課題がある。</li> <li>・自分が気付いたことを教師に伝えようという思いは強いが、友達に分かりやすく伝えようとしたり、友達のよい活動を取り入れようとしたりということへの意識はまだ薄い。具体的に、表現したり伝えたりする点においては課題が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的な体験や交流等、身近な人々、社会及び自然に直接関わらう活動を通して、児童の思いや願いが膨らむように、学習を展開していく。</li> <li>・知っていることや気付いたことを伝え合う場を多く設定して、表現の仕方や伝え方を指導し、友達のよい活動を取り入れて自分の活動に生かせるようにする。</li> </ul>

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
音楽	<p>表現及び鑑賞の活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽に豊かに関わる資質・能力を育成する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・思いや意図を表現するため技能の定着度に課題があり、個人差が大きい。</li> <li>・聴き取ったことと感じ取ったことを結びつけながら聴いたり、考えたりすることに課題がある。</li> <li>・協働して音楽活動を行うことに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年の段階や学習内容を踏まえた常時活動を取り入れる。</li> <li>・題材に応じて扱う要素を精選し、ねらいに沿って児童が思いや意図をもてるようにする。</li> <li>・言葉を選択する、話型を用いる、友達の考えを聞くなど段階に合わせて指導する。</li> <li>・友達とだけではなく、クラスや学年で音楽をつくりあげる機会を設ける。</li> </ul>

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
図工	互いの表現のよさを認め合い、学び合う場を生かし、資質・能力の育成を目指す。	色や形から自分のイメージをもち、主体的に活動を展開することができている。しかし、多様なイメージを関連付けたり、イメージを表現に結び付けたりする力に課題がある。	・表現活動のプロセスをじっくりと味わったり、友達の作品の美しさや面白さを味わったりする能力を高めていく。 ・児童の実態を把握し、個々の児童のもつ資質・能力を高める題材を開発し、児童への共感を大切にした指導の工夫を続けていく。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
家庭	家族や家庭、衣食住、消費生活や環境などについて、日常生活に必要な知識、技術を身に付け、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力を育成する。	基礎的な内容を理解し、実践しようとする意欲はあるが、学習や実習を振り返り、課題を見付けて次の課題に向かい、発展させようとする力に課題がある。	・衣食住や家族の生活等の家庭生活に関係する学習においては、調理、製作等の実習や観察、調査、実験等の実践的、体験的な活動を可能な限り取り入れる等、実感を伴って理解する学習を展開する。 ・実生活と関連を図った問題解決的な学習を効果的に取り入れる。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
体育	運動や健康についての興味や関心を高め、自らの課題を見付け、粘り強く意欲的に課題の解決に取り組むとともに、学習活動を振り返り、課題を修正したり、新たに設定したりして資質・能力を育成する。	・6年男子以外全てで握力(筋力)が全国平均を下回っている。 ・低と高でボール投げ(投力)が全国平均を下回っている。 ・中と高で20mシャトルラン(全身持久力)が全国平均を下回っている。	易しい運動から取り組み、自己の思いや願い、体力や技能に応じて目標をもつ。その後、目標に向けた運動課題とその解決方法を知り、自己の能力やチームの特徴に応じて課題を選び、課題解決のための活動を決める。決めた運動に取り組み、成果を確認して、振り返り、次の課題に向けて取り組めるようにする。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
国際	・世界の言語や文化に興味をもち、多様性を尊重する心を育む。 ・外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言葉の働きについて理解を深めさせ、自分の考えや気持ちを伝え合うコミュニケーション能力を育成する。	低学年のうちは興味・関心が高く英語を話そうとする児童が多い。しかし、高学年になるにつれて、主体的に英語を話そうとする児童が少なくなる傾向がある。間違っているかもしれないという自信のなさや恥ずかしさが原因であると考えられる。	・歌やチャンツ、音声と文字の学習を取り入れ、楽しみながら英語の表現に慣れ親しませる。 ・NT とスモールトークを行い、やり取りの例を見せる。その後、児童とのやり取りを多く取り入れる。児童同士がペアやグループで話し合う活動を設定し、全員が英語を発話する時間を十分に確保する。 ・英語を話したくなるような目的、場面、状況を設定し、相手意識をもってコミュニケーションすることの大切さや楽しさを実感させる。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
道徳	<p>よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多数派の考えに流されてしまい、自分の考えをもつことが難しい児童が見られる。</li> <li>・自分自身を振り返る際に、過去の過ちを認められず、今後の生活につなげることが難しい児童が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主題に対する児童の興味や関心を高めるために、教材に入り込めるような導入を行う。</li> <li>・児童の実態と教材の特質を押さえた発問を行う。</li> <li>・教材に描かれている道徳的価値に対する児童一人一人の感じ方や考え方を生かして、物事を多面的・多角的に考えることができるようにする。</li> <li>・児童が自分との関わりの中で道徳的価値を理解するなど、自己を見つめる学習を多く取り入れる。</li> <li>・学習を通して考えたことや新たに分かったことを確かめたり、学んだことを更に深く心にとどめたりすることなど、これからへの思いや課題について考える学習活動などを行う。</li> </ul>

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
特別活動	<p>望ましい集団活動を通じて、人間関係を形成する力や参画する力を育成する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行事等に対して、計画・実践、振り返り、改善のサイクルで学習に取り組めないことが多い。</li> <li>・学級活動において「学級や学校における生活づくりへの参画」についての学習が多く、他の内容が計画的に行われていないことが多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童主体で活動や行事を行えるようにする。</li> <li>・活動を意欲的・計画的に取り組むことができるようにするために、PDCAサイクルで行えるようにする。</li> </ul>

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
総合的な学習の時間	<p>探究的な見方・考え方を働かせ、地域の人、もの、ことに関わる横断的・総合的な学習を行うことを通して、目的や根拠を明らかにしながら課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成する。</p>	<p>知識量が多く、興味のあることに積極的に取り組むことはできるが、すすんで課題を見つけて解決したり、知識を学習活動や生活に生かしたりすることには課題がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・探究の学習過程（課題設定、情報収集）</li> <li>知識量が多く、興味のあることに積極的に取り組むことはできるが、すすんで課題を見つけて解決したり、知識を学習活動や生活に生かしたり・地域も含めた協働的な学習活動を重視する。</li> <li>・探究の学習過程（課題設定、情報収集、整理分析、まとめ表現）が繰り返されるような単元づくりを行う。</li> <li>・教科との関連的な指導を行う。</li> <li>・年間指導計画を基に、今年度の児童の実態に合わせた活動内容に改善していく。</li> <li>・単元で活用した資料や情報、指導案などは、まとめて次年度に引き継ぐ。</li> </ul>